



排
滑
御
傘
五

特別
~5
6041
5





56-4078

湖濱の傘



種

湖　く　と　ら　し　　ら　ん　と　ら　ん
湖　く　と　ら　ん

も　皆　二　百　七　十

ら　ん　と　ら　ん　と　ら　ん　　ら　ん　と　ら　ん

ら　ん　と　ら　ん　と　ら　ん　　ら　ん　と　ら　ん

ら　ん

ら　ん　と　ら　ん　と　ら　ん　　ら　ん　と　ら　ん

ら　ん　と　ら　ん　と　ら　ん　　ら　ん　と　ら　ん

五

新式一産又白物乃下前より
 年々ともなふ所なりしは梅物に
 寄るやせりしは梅物なりしは
 昔遠く人梅と名遠昔遠志
 くやうくしと新式と名酒中
 遠約乃遠く梅物なりしは
 そりて遠くもこの名れは遠
 二亦よおつらよ新式と名
 一も入るしと名酒中この外
 今も席ありて新式よりしは
 三亦同しは遠くも新式と名
 今もしつら回るしは新式と名
 此亦よおつら

梅 只き紅梅一冬木一も梅一
 紅葉一も梅紅葉よめり

新式一産又白物乃下前より
 年々ともなふ所なりしは梅物に
 寄るやせりしは梅物なりしは
 昔遠く人梅と名遠昔遠志
 くやうくしと新式と名酒中
 遠約乃遠く梅物なりしは
 そりて遠くもこの名れは遠
 二亦よおつらよ新式と名
 一も入るしと名酒中この外
 今も席ありて新式よりしは
 三亦同しは遠くも新式と名
 今もしつら回るしは新式と名
 此亦よおつら

去へし毛亦いぬも生鬃乃
 馬よりうき物よあけり馬
 名家乃物されたる連り
 ひ海り物乃馬亦さゆり
 めくまろくへ又三味線乃
 物字乃山物字乃猫乃人
 名乃物あきくは物よ面と
 ころひ馬より三句まへ
 くのあきく去物とさめん
 ぬめ小物まをぬくさく
 久しとあきくさくさく
 何乃乃心又じまわ物
 環路とじまわの長環路と
 馬物よ七句るれりしま
 る物り七句る色ハ物あ
 せんと生鬃よ二句る物

せん胡と髪よしむ何の
 物よと生鬃よも不物付く
 もくあきく

海へし 草乃字よ二句る
 物よ行と物といふ
 後物事花絲乃一字われし
 じまわは准しくも物よ面
 と物のはつ不物あきハ物
 七句る物

油へし 生鬃よ二句馬指
 とさくわり物と
 物とさきぬか

繪馬 又繪よ去ぬりる生鬃
 じまわは物乃物よ物
 と物さくわ馬物乃物よ物
 中よわれし物乃物よ物

生熟ありて馬駒は行と
場ふ

馬場じ海場 生熟より二白
馬駒は面と

ききかたり

馬子じ海子 馬場乃馬
人偏じ生熟

よ二白馬駒は行と馬場の

あつたもあつた人よこの

ききひも十かきあつた

もあつた先弟はまきつて

あつたとうく市も控もよ

馬よひひくも鞍よひひく

もお合馬駒一産り四乃命

馬へて次者く内馬兼か

御弟乃名馬蘭乃歌い

乃まよふ白きして四乃介

よらうもあつたまあつた

まよわお定もあつた人あ

浄海もあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

生熟ありて馬駒は行と
場ふ

馬場じ海場 生熟より二白
馬駒は面と

ききかたり

馬子じ海子 馬場乃馬
人偏じ生熟

よ二白馬駒は行と馬場の

あつたもあつた人よこの

ききひも十かきあつた

もあつた先弟はまきつて

あつたとうく市も控もよ

馬よひひくも鞍よひひく

もお合馬駒一産り四乃命

馬へて次者く内馬兼か

御弟乃名馬蘭乃歌い

乃まよふ白きして四乃介

よらうもあつたまあつた

まよわお定もあつた人あ

浄海もあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

離るる薄乃る有極極之

君所なる薄生八重

薄るるのひくく離るる二句

より入る薄生君所よ二句

吾等連懐之句 引合く三句

と新式乃又云いひ義理合息

仕ゆくさゆへよ色より興よ

あろ句教乃所をなれしを

懐懐祇尺女連懐 懐向に常一

望く知くいさうひるさあ

い夜冬お二句あくも控

三句よまはけくあくく

あく控といふ事こあられし

を考ふ連懐句向のよもあこ

乃通るれん連離も別と

あろふあろく吾等も

懐も懐向も及冬もの

一旬あくも控之句とまつ

きくくくくくあくも

なつと吾等二句連懐一旬

懐向一旬引合く三句せり

つあ義のなす月吾等あよ

連懐之句吾等義場あはる

の流連も又句懐と女方あろ

同あつあつあつあつ又を

あもつあつ連懐も懐向も

あもつあつ連懐之句を

あもつあつ連懐もあもつ

あもつあつあつあつ

あもつあつあつあつ

あもつあつあつあつ

虚懐よなきことさうひの言
よ懐田とみゆきう人とりあ
魚悦し連よみゆ乃物い離よ
いなるまへ

しり
家の戸 右のよあ〜次
尺さぬしお家此席

室じちよわを極親さう
付くもく候しわす有漏
無漏と各み乃月じあま
あ〜〜次室乃八嶋三室
山本と室乃字よわを島木
麵室も同あ天鼓乃室為
室あところくは室のさ
と一ある介 一それ二あう
し右ののり名られれももや
こしり〜山あ〜

とく〜もま〜次備戸
乃室室あ〜あわら介
いほまあ〜も室のまわら
〜一は〜あ〜

しり乃ま 植物ちり室
室よ〜あま

れ〜

室乃わ 室あ
名あよ〜あ〜

室乃字されしわさ〜場入
さめり室〜あ〜
乃あ祿をひ〜すあ〜
あ〜あ〜あ〜あ〜
續入あ〜あ〜あ〜あ〜
と〜あ〜あ〜あ〜

おきての中よもむくこのる
とりあつと申下初中たふと
三條よもあつち初も一はの
とよ又よ申下初中たのあ
ゆへりさこあこ橋おま
まこのあつちさこや田ま
よこりさこあつちさこ
かあり

しんろ 本と雑と花と結と
さふに景よ付乃
お乃るあつち極初よあ
とむろろ二乃およ又あ
あ

じさふ 物ふるわらるる物
るり連よ二句乃
初されし俳よの曉龍

あんと景よあひく今よ
あ

胸乃雲 鳥と地と境初
お紙と鳥と波物
よい付くもろろかこ

し線乃あつち 鳥と景年初よ
お紙と鳥よ

胸よ あつち句初よ一り三
白あつち初は初初初
くあつち初は初初初
胸乃さつちあつち胸乃初
胃の月胸の初よさこ
胸乃初つちあつちさこ二句
あつち初は初は初は
しよあつち初は初は初は
あつち初は初は初は

くす

むくし ねんこゑるわねよ
のちをうんく二ま

る

向しうひらぶる二白ゆ
まむしけあふ付向し

うまきしぬるいむら

しらく 一まあつひくよ打
乃まよ二白ゆ一

まあつといんむしらく
ねをぬらむら

じまゆよ 二くふ乃洞二
白まこせと勢

よいからくむすうくあふ
あうすうも二白まらり
ままあふあふの勢らむま

うらぶらとくうら海
ふねとゆらむら

しら乃花 雪を言ふ乃内
挿箱よあふん正

花よあふぬゆわむさ
あ乃花とあふん勢より續
てあ花ともあふんす

はな乃花 花とあふゆら
花とあふゆら

文ゆらあふらる種もむ
乃まあふら花と只紫ま
あふら雜らむらあふら
まゆゆ乃らあふら乃神
はなまらあふゆらとして
も雜らむら

うきよ けいふりけいふり
きんぎょはきんぎょ
とあり新式はきんぎょ

用るうきよ

うきよ

うきよ けいふりけいふり
きんぎょはきんぎょ

きんぎょはきんぎょ

うきよ けいふりけいふり
きんぎょはきんぎょ

うきよはきんぎょ

うきよ けいふりけいふり
きんぎょはきんぎょ

うきよはきんぎょ

うきよ けいふりけいふり
きんぎょはきんぎょ

うきよはきんぎょ

うきよ けいふりけいふり
きんぎょはきんぎょ

うきよ けいふりけいふり
きんぎょはきんぎょ

うきよ けいふりけいふり
きんぎょはきんぎょ

うきよ けいふりけいふり
きんぎょはきんぎょ

うきよ けいふりけいふり
きんぎょはきんぎょ

うきよ けいふりけいふり
きんぎょはきんぎょ

うきよ けいふりけいふり
きんぎょはきんぎょ

うきよ けいふりけいふり
きんぎょはきんぎょ

うきよ けいふりけいふり
きんぎょはきんぎょ

うきよ けいふりけいふり
きんぎょはきんぎょ

うきよ けいふりけいふり
きんぎょはきんぎょ

面を塩なりし言の成る乃たの
りよよ不及及之石給ふあり
洞たるも塩道とありたの文
字と入るるの葉とらふら
折紙を塩とらふるなりそ
きしよの言乃成ふいあり
可只洞をいふ乃無葉とらふ
みしよの言なりし言なり
ふりしよの言を塩とらふ

宇治乃川橋 うぢのかわはし 中流の

想別乃川橋池乃中流亦山
敷よありし言なり丸形武
とらふるふ若川橋と山敷
をいふよありし言乃川橋
と山敷ありし言なり

その小虫よ肖指乃凡川橋
同と今あるありし言なり
なりし言乃山敷ありし言
なりし言なりあり

青衣指 あいらさし 葉のそと

うらうら指とらふる言なり
野を原を原とらふる言なり
今乃指指よ二言とらふる若
葉乃言なりありし言指指よと
言なり連よ青衣指とらふる
葉乃言なりありし言なり
とらふる言なり指指よ今言なり
なりし言なり青衣指とらふる
言なり指指とらふる言なり
ありし言なり指指とらふる

そのまゝにわさき〜ぬ〜も
そのまゝも人傷むわははは
物〜わは〜はめ〜の〜は〜
どう〜と〜な〜と〜は〜
し〜れ〜と〜恨〜と〜は〜
乃〜と〜と〜け〜と〜は〜

新衣

新衣は筆と加〜
志〜と〜袖の〜は〜
人〜と〜は〜と〜は〜
熊〜と〜は〜と〜は〜
二〜と〜は〜

浮木

浮木は〜と〜は〜
鐘〜と〜は〜と〜は〜
又〜と〜は〜と〜は〜
今〜と〜は〜と〜は〜

地〜と〜は〜と〜は〜
生〜と〜は〜と〜は〜
物〜と〜は〜と〜は〜

う〜と〜は〜

魚〜と〜は〜と〜は〜
加〜と〜は〜と〜は〜
乃〜と〜は〜と〜は〜
今〜と〜は〜と〜は〜
し〜と〜は〜と〜は〜
あ〜と〜は〜と〜は〜
乃〜と〜は〜と〜は〜
余〜と〜は〜と〜は〜

新乃屋

新乃屋は〜と〜は〜
新乃屋は〜と〜は〜

とてさうな世の人さへつゝも
名別乃もし万葉よいどに
うらみとつゝあまのつゝと
うらみわらうくれさな別よ
わらあ世し人あへん
口傳又支干の卯又字の
これおちをうゆりはなま
まししおちをうくく免二か
卯よ卯の年卯月卯日
卯時あまの卯よ今一あま
支干の卯よ卯秋うらま
わらうゆらう卯秋正月
乃卯日ようらばる卯卯
免ち卯月よ免ゆ今よ
はまらうらわ又申うら
卯よ卯の年卯月卯日卯時

あひ二乃卯卯秋と支干の
卯よ同とゆわ卯卯卯
本乃名よ免とゆわ
免のうまよまはる免の
うらまわらう免秋うらま
免重いあままらう
うらまわらう免あま
大人あまのゆわよわらま
汁よまらうあまのうらま
あまの免免免とまらわ
一既亦小物合とらうらま
免くあまのうらま

浦 浦のうらまは浦と

浦のうらまは浦と

白 白のうらまは白と

くまらちと申すはあまの月日
乃の月日と月日れあまの月日
と云乃の月の月日と人
心も月の月日をいふと
くまらちの月日をいふと
あまの月日をいふと
くまらちの月日をいふと

うはらわ音

神を祀る
てらりて

くまらちの月日をいふと
あまの月日をいふと
くまらちの月日をいふと
あまの月日をいふと
くまらちの月日をいふと
あまの月日をいふと
くまらちの月日をいふと
あまの月日をいふと

くまらちの月日をいふと
あまの月日をいふと
くまらちの月日をいふと
あまの月日をいふと
くまらちの月日をいふと
あまの月日をいふと
くまらちの月日をいふと
あまの月日をいふと

乃より清くもあつらふや
神枕よりも肌よと海らら
か成らうしぬん肌をぬた
いと清く家方のもへり
う清くもあつらふやけさ
おしり梅梅るしともりら
なまを廻し能く分別をへ

うすこの字 ねよ一清く
多れと離よ

い面をうへくもあつらわ

うす物 乃又乃内し物の字
よへ字まきこすまぬ

乃もあつらわぬ

煙火 うへい
新めしきこころつむ乃
字連よまこけし

離よのわよ一清くもへり

埋まうりらもは乃内し

上乃字 離よのわよ一清く
うへまかこもよと

聲中し清くもあつらわ
清くと清くもあつらわ

うぬ 産前し生ををく
ぬり一清くもへり二白

去こ屋乃字よの離りいせ
まこ

うぬ寝 孫
新ららわ

うら 妙あつらわと
まこよあわ

わ 新ららわと
人かあわら

新ららわと
人かあわら
は 新ららわと
人かあわら

みづらき原をよのめと
ちか原をよのめと
すお原をよのめと
里の原をよのめと
橋の原をよのめと
約をよのめと
結をよのめと
るをよのめと

お原と打すむの類

つらふてよとのおのめと
二のまし面八句乃西よあり
ても二三ありふらふら
あつてよとつたのめと
あつてよとつたのめと
三のまらわいおのめと

乃西よ二三ありふらふら
あつてよとつたのめと
あつてよとつたのめと

お杖

お杖 ぬくすす月お日
もとまはしお杖
つらふてよとのおのめと

お川

お川 ぬくすす月お日
もとまはしお杖
つらふてよとのおのめと

お盆

お盆 ぬくすす月お日
もとまはしお杖
つらふてよとのおのめと

井乃字

字乃字 井乃字

井乃字の類は乃乃字の類に
乃乃字の類は乃乃字の類に
乃乃字の類は乃乃字の類に
乃乃字の類は乃乃字の類に
乃乃字の類は乃乃字の類に
乃乃字の類は乃乃字の類に
乃乃字の類は乃乃字の類に
乃乃字の類は乃乃字の類に
乃乃字の類は乃乃字の類に
乃乃字の類は乃乃字の類に

井の字

新式は井の字

井の字は井の字の類に
井の字の類は井の字の類に
井の字の類は井の字の類に
井の字の類は井の字の類に
井の字の類は井の字の類に
井の字の類は井の字の類に
井の字の類は井の字の類に
井の字の類は井の字の類に
井の字の類は井の字の類に
井の字の類は井の字の類に

わさちち原しりこさ原竹
原名原川原名のをさけら
又字とよわるハ野原よわ
さけねる権わーぬの原を
火乃原片巻の原林葉乃原
毛乃原と野原よ成取
場ふ者の権原しきと被よ
まきく原よ野と二句まき
ささけも新成よいんささ
秋さけ原よまきーさ野
りーさけ者乃ぬよま
るー必原よ野と二句まき
まきりいささー

野原とまき

辨よ二原よ
二句まきあり
わさちちへーまきいさけ野の

原名也野ありしりもわさち
原と二句まき野原とまきと
あきー

野原の

三句まき野原乃
中野の類と二原よ

一原まきー野まきーとは
わさちへー野乃原乃原
地別まきを替は續くも
同し場まきこのまきと
と秘申なうまあさり
わさ

野原

原とまき原とまき一
原よ二句まきのわさ

わさちへーまきも場
まきもまきとまき
まき原乃まきよいさ狭と

去し阿蘇と付し阿蘇のりしひ
あ〜

野乃宮

湯縁よあわがえ
辰う〜もあわがえ

紙紙し名おし何事こあ〜
もわうりよ二座よ一白し

野乃宮の別名は法橋と
名し野乃宮野乃宮野乃宮野乃宮

野乃宮野乃宮野乃宮野乃宮
野乃宮野乃宮野乃宮野乃宮

野乃宮野乃宮野乃宮野乃宮
野乃宮野乃宮野乃宮野乃宮

野乃宮野乃宮野乃宮野乃宮
野乃宮野乃宮野乃宮野乃宮

野乃宮野乃宮野乃宮野乃宮
野乃宮野乃宮野乃宮野乃宮

野乃宮野乃宮野乃宮野乃宮
野乃宮野乃宮野乃宮野乃宮

野乃宮野乃宮野乃宮野乃宮
野乃宮野乃宮野乃宮野乃宮

野乃宮野乃宮野乃宮野乃宮
野乃宮野乃宮野乃宮野乃宮

野乃宮野乃宮野乃宮野乃宮
野乃宮野乃宮野乃宮野乃宮

野乃宮野乃宮野乃宮野乃宮
野乃宮野乃宮野乃宮野乃宮

野乃宮野乃宮野乃宮野乃宮
野乃宮野乃宮野乃宮野乃宮

野乃宮野乃宮野乃宮野乃宮
野乃宮野乃宮野乃宮野乃宮

申し花形を看取にわら
と形三句の如し

軒乃玉のたまああま 水色流物みづいろながものは
あつらひの如く

あつらひの如く
物々あつらひの如く
ていつひの如く
よゆわたり大きき
あつらひの如く
同く申し梅の如く
の形あつらひの如く
形のおつらひの如く
人形物ひとがたものの如く
物々あつらひの如く
とあつらひの如く
て申しつらひの如く

つらひの如く
あつらひの如く
よゆわたり大きき
水色流物みづいろながものは
あつらひの如く
いさふ物いさふものの如く
あつらひの如く

野のあつらひあつらひ 表あにあつらひつらひ
新式あらたなあつらひあつらひ同おなく

今一物と久あつらひ
あつらひの如く
あつらひの如く
あつらひの如く
あつらひの如く
あつらひの如く

のころあつた
張暑

秋

のころきく
張菊

秋九月のころ
乃菊と云く

のころあつた
荷方使

十二月二十凌八

墓へてく
そまへて
えりて
とりあつた時乃物なり

張

張

只一も本あつた一
よいおしよらうと

述懐乃物なり

十よあつた人なり

世ぬも
不志門

述懐乃物なり

光

あつた
不連よ

光

光

あつた

述懐乃物なり

光

あつた

光

光

あつた

みうらわれし 誰よのうら
たにまへくくくをさにかく
くく歌乃言とての面をさめ
つひく鏡の波を清人のけ
と歌おのうらとてをさめ
よおせらるる不審らるる清人の
くけとるけくくく白神よら
て志の事なりくす恋ふとの
うらまへをさめよまへらぬも
あふたれと波をさめとの白乃
あし歌乃言の白くくく
もも誰よのうらまへらぬ
もも誰よのうらまへのと乃を
乃まよはれし事なりまを
のむよの依り神なりくく
くくくくくく又歌にむ

不毛のふむのあまの
さ乃まよよの白髪歌乃言
をせのまよまへくす二句
婦人をけり又歌よ清くも
まへ人まへらるるおの清り
くく可と回くせのまよら
む橋をさめよのまゆにの
まゆまのまよくくおの清り
まゆまのまよくくくく
くくくく白神よのまよ
むよ 於二句まよ新式
白神よのまよくく婦人
くくすとあまの人のまよ
おの志をさめ神乃歌のま
かむ誰よの人の志を二句

乃とよしとてむ人む
おもふ人なむ乃也は成るり
不義門を子種とてく連懐
うらむとてはるこ乃布よ
まへくそ種もれとい婦人
まへ

親よ老

二白まこい小書よ
付白たよ種とくと
新武りあつらん人なむ不義
とて親ももい新種を種抱
乃布よあせわわ新種を種
物よ付くらん種くわくま
物もあよいわあゆく種せ
つとてはるこ乃布二白まこ
まと新種を種とくと同
申さうと種別あつとわ

くらのものむむまむの書
よも二白まこい不義とら
種もくわく理宗とせの
事あつてわつた連のくく
しくむゆり人なむとら
ぬむまむの書とて連懐
よらうと付乃布新種う
親連懐よあつ

親よ子

不義付二白まこ
但人倫の親り
この竹の子あつて付くもく
あつてあつて相わるとは
まもくも人倫も連懐らり
親とけりまけり連懐よむ
と白まこのと海
おまのよ
親とけりまけり連懐よむ

中よまへんまうにせしめ
下乃句よふと海りませす
首義乃連款み用と袖よ
病と被りくふ句よせしめ
しとこつと離れりいれと久
事三句よまへん同と連款よ
呉子句よ二句のふと海りの
下の句よ百韻を離れよ
はるまゝや答ふ下の句に
みと海りみ子句よ二句と定
あり義りいれと下との句
よあたまひまはれ款の下
句よ成く二句とまゝぬよ
しり義りいれとつと人の
せぬも成と二句を離れた
法なりよ兼義乃子句り

一乃せしめつと二乃乃
柄るり者乃句やまうよま
とむり人あつと百款は下
とる人あつと二句を離れ
ま三句のあつとわ

面款

只一意と月形ととふ一
物乃おのつと成とも今一三
句あつとつと面款は款を
字法乃字面の字は二句ま
とわ成乃字別よまゝ成と

葉葉

一松乃葉葉一柳り
とと葉葉と教はつと離れ
とと葉葉と教はつと離れ
とと葉葉と教はつと離れ
とと葉葉と教はつと離れ

葉とて人と枝よ付くらしぬ
白紙のうらを雜しめるべし
木乃葉天物木乃葉様木
乃葉衣皆あると云ふと云ふ
まゝと雖も柳桐柞秋らり
ちの條に皆初秋より一葉落
らるるはよき木乃木の名を
さす種は只一葉らるといひ
さゆ條より成るは松竹の落
葉とて雜しと成るは木の落
葉といふこと又落葉はよき種
木のちりちり松乃葉乃木の葉
は初と雖もとあれし雖も
而して種葉ちりちり何乃木
乃葉のちりちりも白乃木は
初と雖も又花はちりちり

藤萩竹篠竹乃葉とて
乃葉よあも木下は種也
あも木下あも木下葉と
あも木下乃木とて

落葉乃宮ら 女に中ん柳

され人悔よも不種をよ
あも木下種あも木下とて
とて白乃木はあも

萩 新式より産る白乃物

あも木下乃木はあも木下
あも木下乃木はあも木下
よも木下乃木はあも木下
白乃木の落葉一はあも木下
花と萩よ種とて一はあも

成を留く石可也

おちひのま

善治の物なり
極約し一巻一巻

白き人

おちひのま

善乃物なり
約し二巻の

白の物よみゆるわ

おちひのま

人偏よみゆる

おちひのま

ね像とまの乃
定まき乃定より

二巻き一巻よ二巻の物なり
約し二巻よみゆる

おちひのま

おちひのま
くま

思乃字の連よみ白物よ三
白き人よまおちひのま

おちひのま
連よ白と物に約し七巻
ても約し二巻よみゆる
ぬまき乃定より

おちひのま

おちひのま
けらりた二巻

おちひのま

おちひのま
きふよあ

おちひのま
こくらりありあり
は内ひのま
おちひのま
おちひのま
おちひのま

うもむ海に乃な三乃内う
もあうさ防今一但おん
島とふのあうと物とて海

沖 おき 二今一ちふあううへ

尾 おのへ 連よ名あそとへ二
あまうし海り三句と

へふふあううあうあまき
物られし連のう二句あ
へ一各あ乃名と二句あ
ゆるち

尾よ あまうし海り三句と
乃うふ二句あう

あまうし海り三句と
あまうし海り三句と

大井川 あまうし海り三句と

條よ大井よあせまこふ海り
おせわさ海り一うくあ乃な
乃あよくうく海り

奥山 おくやま 一産よ一山乃あう
又すま海り奥山と

あそとへ二あこああう
始乃又又字海り又又う同
し海りあせぬとつあ

奥 おく とつあ わよ一海りうわ

ああもあうへ一ひ類海り
浪るはあう一太網とつあ物
こ海り奥とつあ一白奥を
あう海りうひう今番あ

るのくさくさ色正然之意是
小花ふくく先書之ゆれも
尾花と終よ彼をきりも
く終つたふりまもし尾乃字
よ種る妻と云然と非るの
尾乃字よも花乃字よも
三句まへ来るわ

わくて田

極和よ二句可極

極和よ二句極へ一
言と一極ふまはし
事しわくて田と六田地よ
付る詞と心知を極
きくひる極と極
つまはよあ乃物よあ
はせわくてとふ又端

とくさくさ一極と田
田は付字にわくてと云
くは一極とつらぬ極乃
非りいふ一極もわくて
も極和り一三句極へ
起 終ふぬる極るよ田
乃詞二句まへ一ぬる極
にらるの詞と終るの
動も人乃も田一極
は云終ふよ終るぬと
可き

わくた

と云詞云にわく
可月を結く

と云ぬる

大原北条あき 二月五日

大新わか 四月五日
三梅のゆき

白

連く 連は一向るに離るる
然乃は然のゆに然も
この類は今一もて清然
然若然并然改と然羽
然然然なるの然乃字
然をさへくへぬるは然二
乃亦は高きへ 同云
日くく一息なるは連款
乃くく一産一向よさく
は然るは二句の亦高も

あるやう小宮始は八女
吾も連るるをさへく
あめくははははははは
乃く小宮は離るる世倍乃
と皆角ははははははは
ねく連はくもははははは
ひくく離ははははははは
くまの物くはははははは
乃相を二句とらよははは
句し句もはははははは
二句よははははははは
ははははははははははは
ははははははははははは
大成務合とくははははは
あははははははははは

目曇る 只一月後よりよ
又一人一船よ

い密乃打早人志同んま
とのくも所今一まへ
眼瞶曇 又その 要果花ホの
勢よいむい付くもら
一あへん

雲とと重 離りん二句ま
うんと勢のり

清くも同くせよ果し
二句まは候物一と二句

雲井 庭 大内乃も
ひらき物

二句ま候り

中の上人 致上人乃ま
人備なり

候物一と二句ま

雲井 句ふわく内裏
まう候するまの

事とまこも候物らり雲

平座よ二句まは離りん

二句こるま乃系まへん
と一り回さるわお紙を

場へ一物よらく大内

乃もらるるまへん
の系るこも回さるまへん

乃と重と重と重と重と重
ま場へ一物よらく大内

乃と重と重と重と重と重
ま場へ一物よらく大内

と極細は三句草にも三句人
備はいあうひ草うら一草
とうふと連は二あり離は
ひふ草は牧草を菊進とわ
とうふ草と一草へ一草
牧草をい草刈乃草名と半
銅草のもしるれと草
ま草とも草よ一草刈
よ面を端へ一草草と
まよ二句計端へ草と
とふせう一草刈乃草名
草うら草名は草を
今一刈の字連は後草
一草草一草草草草草
一草一草一草一草一草

面をまへ一草刈刈とせ
刈乃刈草

草乃草 与れも極細よも

あう寸草の草とく草
乃草草草草草草草草
草よ一草の草草草草草
今一草へ一草又草の戸
草草草草草草草草草
乃草草草草草草草草
よ今一草へ一草草草
草草草草草草草草草
あう草草草草草草草
二句の物と草へ一草乃草
草草の草草草草草草
草草草草草草草草草

神遊りあつしぬ人毎交
はるのまじとあやかりる
乞ひ通乃才一かん人まし

圃乃若とあ乃若 丁字通三
句俳

よハ二句まじ

圃の若と名は 丁字通打紙
つと新式

淋し同あまのふと名あつ
けくはくちか守打紙
とい通るわ二句まの物ま
付しきうしきれを二句
まじまじ打紙をきくま
二句まじう付くはくち
しき物ま打紙と通と
いふく同とま乃名は圃の

ふち付しわくし打紙
付くまらうしかう守ま
ま乃名と二句まじ
名はとい打紙と通とま
の連は圃と二句ま
俳よハ二句まじるはよ
まじく二句まじと記ま
名はと連は打紙と通と
うまの新式の文法ま
まじまじよまらあ
圃の若と名は圃とま
と名はと二句ま

圃の海 名はと新式まじ
のまらあ

へしつせのうし伊豆の海を
乃海まじまはけりま

るるし玉乃名よも名保あも
之句を〜事し〜離りち
二句は〜きし

くれ竹のあ〜
極種と也
弟のあよ二

白竹〜あ〜句し

精 離よ二あ〜馬橋い
かよあ〜人〜

言 二句を〜夕の字よ二
二句を〜極の言〜せら

乃言年一の言夕阿ふよ

二句らわ言よ夕ら二も二句

去るわ〜阿〜転〜阿阿ふ

し転ふよあ〜阿

く〜きと〜わ〜あ〜い
転ふ〜り〜あ〜

あ〜阿不可阿〜く〜きよ

も冥途乃も〜地〜あ〜の

く〜きよ〜阿〜阿〜阿〜

冥途と言の轉よ〜あ〜人

あ〜人〜く〜き〜阿〜阿〜

冥よあ〜阿〜く〜り〜阿〜

も冥言乃脱〜あ〜思

それ〜あ〜く〜思〜あ〜

又阿ハよ二句通る一業
乃字よハ回字より一物あり
し三句可止ましく死らるる
す一とま事かおとれれども
只業の字の心は成る一と
く一ハくハくましく一と
ま事の心ハ又阿ハよあり
寸及ま依る物又阿ハよも
成る一とく一ハく一と
殊一 瑞あり一とあり
一と一とあり一と一とあり
一と一とあり一と一とあり
一と一とあり一と一とあり
一と一とあり一と一とあり
一と一とあり一と一とあり

殊一 殊一 殊一

一と一とあり一と一とあり
一と一とあり一と一とあり
一と一とあり一と一とあり
一と一とあり一と一とあり
一と一とあり一と一とあり
一と一とあり一と一とあり
一と一とあり一と一とあり
一と一とあり一と一とあり

灌佛 三月八日

三月八日
三月八日
三月八日
三月八日
三月八日
三月八日
三月八日
三月八日

扼乃 扼乃 扼乃

扼乃 扼乃 扼乃
扼乃 扼乃 扼乃
扼乃 扼乃 扼乃
扼乃 扼乃 扼乃
扼乃 扼乃 扼乃
扼乃 扼乃 扼乃
扼乃 扼乃 扼乃
扼乃 扼乃 扼乃

